令和８年9月21日（月）
読売新聞　朝刊・地域面奈良

麻酔薬 植物にも効く

北見工業大 陽川准教授が講演

薬師寺月例 まほろば塾

日本人の美しい心や豊かな文化を伝える「月例奈良まほろば塾」（読売新聞社後援）が20日、奈良市の薬師寺で開かれた。「シリーズ植物学」（全3回）の最終回で、北見工業大准教授の陽川憲さんが植物を使った麻酔医学の研究などについて講演し、約220人が聴き入った。

陽川さんは、麻酔薬が動物だけでなく、植物にも効くことが実験で確認されていると説明。全ての生物は外部の環境に対応し、内部を調整して生きており、麻酔薬は植物や動物の「外部への応答」のみを失わせ、根を伸ばすといった成長は継続することを紹介した。

また、麻酔薬が効く仕組みは分かっていないものの、植物への麻酔薬実験などから、生き物の内外を隔てる境界部分のシステムについて、「生きている状態を維持したり、進化したりすることにもつながるのかもしれない」と分析した。

次回の月例塾は10月18日で、永田清・国立病院機構奈良医療センター院長が登壇する。



植物を使った麻酔実験について説明する陽川さん（奈良市で）